

## 年頭の辞

## 新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会  
会長 熊井 真次

新年明けましておめでとうございます。本年も会員の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

2019年から始まったコロナ禍の影響により、昨年2022年も学会活動にとって大変不自由な環境が続きました。残念ながら大阪大学での対面開催を予定していた5月の第142回春期大会は感染再拡大のため急遽オンライン開催へと変更になりましたが、ようやく11月の第143回秋期大会は東京工業大学にて現地開催することができました。できるだけ多くの方々に参加いただけるよう、軽金属学会の講演大会として初めてのハイブリッド形式を採用しました。お陰様でおよそ3年ぶりに表彰式、市民フォーラム、懇親会を対面で実施することができました。

9月には富山市において、本学会主催第18回アルミニウム合金国際会議（ICAA18）を無事開催することができました。「Aluminium and its alloys for zero carbon society」をメインテーマとしたICAAシリーズ初のハイブリッド開催の本会議には、日本を含む24か国から海外174名、国内303名、計477名（オンライン参加117名）という予想をはるかに上回る方々に参加いただくことができました。振り返ってみますとコロナ禍の中、およそ5年間にわたる準備期間においてさまざまな状況変化に見舞われ、幾度となく開催が危惧されたことを思い出します。松田健二実行委員長の「奇跡的に開催できた」という言葉が正にその状況を表しているかと思えます。なお、ICAA18における主要な発表論文は2023年2月に共同刊行誌Materials Transactionsの特集として刊行予定です。

昨年は常設委員会を中心に研究、発表、支援、交流、育成の5つを柱に活動方針の策定・推進しました。研究委員会では、軽金属学会の活動範囲（研究範囲）を学術（Science）から素材・製品に係る生産技術（Engineering）へ拡張し、社会課題解決の一翼を担う学会となること、産学官の連携をさらに強化し、軽金属に関する研究活動を活性化するための先行研究部会、応募研究部会、公募型研究部会設立等について検討しました。大会運営委員会では、ポストコロナ、ウィズコロナの状況下で参加しやすい講演大会のあり方について検討しました。企画委員会ではコロナ禍の中、オンラインにより7件のシンポジウムを企画・開催しました。軽金属基礎技術講座は新型コロナ停滞期につま恋リゾート彩の郷で対面開催ができました。男女共同参画委員会は講演大会時の男女共同参画セッションにおいて、男性学や女性研究者・技術者のキャリア形成に関する講演を企画しました。編集委員会ではトヨタ自動車や三菱重工業とのトップ座談会を開催しました。現在、論文や解説投稿数増加を目的に特集企画の公募等についても検討しています。総務委員会では会員増強のため「生産技術に携わる技術者への働きかけ」の方策について検討を開始し、また小中校生向けの軽金属啓蒙を目的としたバーチャル工場見学を学会HPに掲載しました。このほか本学会では若手人材育成のため、軽金属奨学会特別奨学生のセッションの導入や軽金属溶接協会ポスター賞授賞への協力等を関係学協会・財団と協力して実施しました。

さて、2021年5月の会長就任の挨拶において、「2051年の創立100周年に向け、長期的な課題について検討を開始する必要がある。最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き残るのでもない。唯一生き残ることができるのは、変化できる者である」というダーウィンの言葉がある。従来軽金属学会の強みと考えられてきた“世界でも稀有な軽金属に特化した学会”であること、“産と学の会員が半々のバランスの取れた学会”であることがこれからも強みとして活かされるのか、あらためて考える必要がある。変化をためらってはならない。」と述べさせていただきました。

本学会の会員数は微減の傾向にはありますが、なんとかほぼ過去の水準を維持できています。しかし、これまで本学会を支えてくださった特別維持会員企業が減少したこともあり、学会運営においてはこれまでにない財政的努力が求められています。正会員・学生会員等個人会員はもちろんですが、どのようにして維持会員の増加を図るかが喫緊の課題です。

何よりも大切なことは、軽金属学会設立の趣旨「軽金属に関する学術・技術の進歩発展を図り、工業の発展に尽くす」を鑑み、あらためて「軽金属」という素材が、そして本学会が来るべき社会に対してどのような貢献ができるのか吟味し、想像し、実行に移すことかと思えます。戸田裕之副会長ならびに常設委員会委員長で構成される総合計画委員会では、現在100周年に向けた長期的課題について、「軽金属学会の長期ビジョン」として、各常設委員会で検討した結果の取りまとめを予定しています。

会長以下現理事の任期も残すところあと半年弱になりましたが、今後とも理事・事務局一同、軽金属学会が会員各位のみならず社会に対し幸せを創る学会として貢献し続けるための礎を築くため尽力する所存です。

本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。